

あなたの声を まちづくりのために

企画政策課 ☎(88)9111

総合計画の位置付けと期間

令和5年3月で第8次総合計画の計画期間が満了するため、第9次総合計画の策定を進めています。皆さんの様々な意見をいただきながら総合計画を策定するため、各地域で懇談会を開催します。

総合計画は、まちづくりの基本的な指針であり、市の最上位に位置付ける計画です。第9次総合計画は、10年後

の市の将来を見据えながら、人口減少と少子高齢化の影響頻発する自然災害、ICT技術の急速な発展と普及など、社会情勢の変化に柔軟に対応できるよう、令和5年度から令和9年度までの5年間の期間とします。

計画は、将来の目標や目標達成のための基本方針などからなる「基本計画」と、基本方針を実現するための施策を示す「実施計画」で構成します。

まち・ひと・しごと 市創生総合戦略を統合

令和2年3月に策定した「第2期まち・ひと・しごと市創生総合戦略」は、第8次総合計画と同様、令和5年3月までの計画期間であり、次期総合戦略と総合計画を一体的に推進するため、両計画を統合して策定します(図のとおり)。

一緒に須賀川の未来を 考えましょう

各地域で開催する懇談会の日程は表1のとおりです。

●表1 地域懇談会の開催日と会場

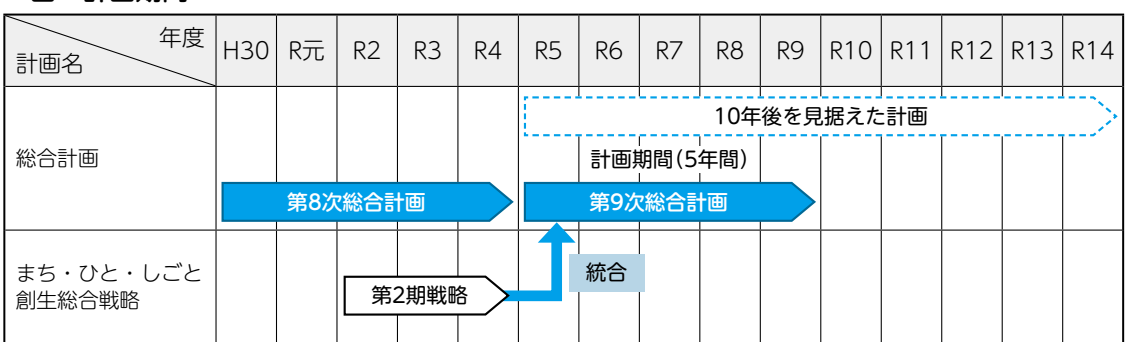
地域名	開催日	会場	時間
浜田	5月24日(火)	東公民館	午後7時～各会場1時間程度を予定
西袋	5月26日(木)	西袋公民館	
稲田	5月30日(月)	稲田公民館	
小塩江	5月31日(火)	小塩江公民館	
大東	6月2日(木)	大東公民館	
仁井田	6月6日(月)	仁井田公民館	
長沼	6月9日(木)	長沼保健センター	
岩瀬	6月10日(金)	岩瀬市民サービスセンター	
旧市内	6月13日(月)	tette	

※お住まいの地域に関係なくどの会場にも参加可能です。

●表2 今後のスケジュール

実施月	内容
5～6月	地域懇談会の開催
5～10月	総合計画策定審議会での審議
9月	パブリックコメントなどの実施
12月	総合計画の策定

●図 計画期間



市の将来を一緒に考える中学生ワークショップ・市民ワークショップを開催しました！



参加者 第一中3年 松浦優香里さん
良い未来や悪い未来を考え、おもしろい意見が数多く出されました。これまでの良いところを残しながらも、私たち一人ひとりの声やアイデアが生かされるまちになってほしいです。



参加者 本町 中村倅輔さん
高校生の参加が多く、若い世代がまちの将来に関心を持っていることはとても素晴らしいことだと思います。幅広い世代がまちづくりに参加し、今後さらに様々な交流が生まれるまちになってほしいです。

令和2年国勢調査集計結果

本市の総人口は 7万4992人に

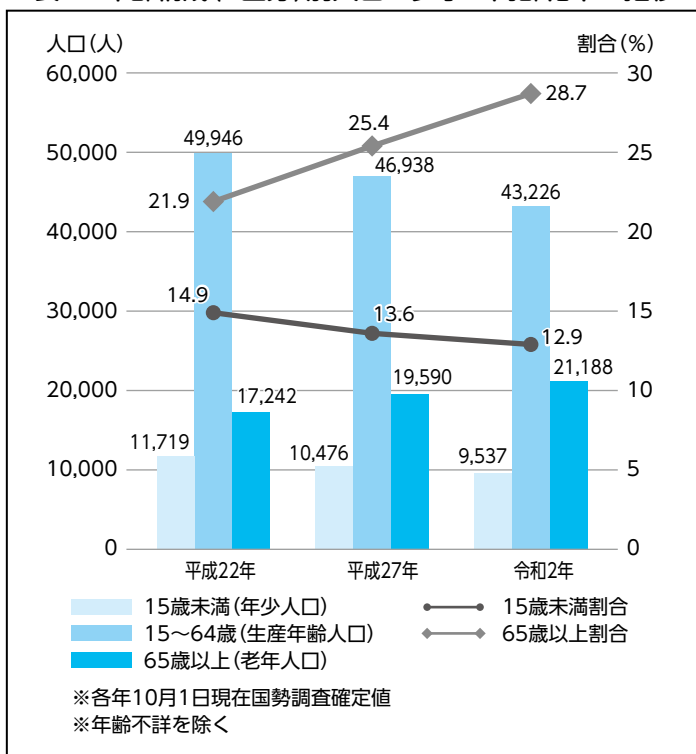
企画政策課 ☎(88)9113

●表1 前回調査との比較

調査年	世帯数	人口(人)	男女別(人)	
			男	女
平成27年	26,345	77,441	38,032	39,409
令和2年	27,127	74,992	36,781	38,211
増減	実数	+782	△2,449	△1,251
	率(%)	3.0	△3.2	△1.98

※各年10月1日現在国勢調査確定値

●表2 年齢構成(3区分)別人口と少子・高齢化率の推移



※各年10月1日現在国勢調査確定値
※年齢不詳を除く

令和2年10月1日に行われた令和2年国勢調査の集計結果が公表されました。

人口と世帯数

本市の総人口は7万4992人で、前回調査の平成27年と比べ2449人(3.2%)減少しました。世帯数は2万7127世帯で、前回と比べ782世帯(3.0%)増加しました(表1)。

人口が減少する一方で、世帯数が増加し、平均世帯人員は2.8人となり、少人数の世帯が増えていることが分かります。

人口構成では、総人口に占める15歳未満の年少人口は12.9%で、65歳以上の老年人口の割合は28.7%でした。年少人口が減少傾向にある一方で、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化がさらに進んでいることが分かります(表2)。

数などの基本集計結果以外の結果は、順次、公表される予定です。

詳しい集計結果は、総務省統計局ホームページをご覧ください。



総務省統計局
令和2年国勢調査

私たちの生活向上に 大切な統計調査

統計調査は、統計法に基づき、総務省・経済産業省・農

林水産省などが行っています。調査内容は、人口や世帯数、商工業、農業、家計、労働状況など多岐にわたります。これらの調査から得られた結果は、国や地方公共団体だけでなく、民間企業や研究機関でも広く活用され、私たちの生活向上のための大切な基礎資料となっています。

これからも、各種統計調査へのご理解とご協力をお願いします。



個人でできる身近な取り組みや市で行っているSDGs推進事業などを紹介します。

企画政策課 ☎(88)9111



●ゴール10 「人や国の不平等をなくそう」

世界の中には、障がい者や性的少数者、人種などへの格差や差別が残っていることがあり、生きにくさを感じている人がいます。

[LGBTQ]などの性的少数者は、日本で約10%*(およそ10人に1人)とされており、実は身近な存在です。

性的少数者は、偏見や固定観念によって差別を受けることがあり、周りに相談できないため孤立感や不安などを抱えています。そのため、一人ひとりの「性」の在り方を認め合える社会を作ることが大切です。

※出典：LGBT総合研究所[LGBT意識行動調査2019]

私たち一人ひとりができることって？

差別や不平等は、それぞれの「違い」から起こります。ほかの人と自分が違うのは当たり前として、この「多様性」を認めることが、差別をなくすことにつながります。相手との「違い」を理解し、お互いに認め合える気持ちを持ちましょう。